

## 詩編 第34編 19節

「正しい者の悩みは多い。しかし、主はそのすべてから彼を救い出される。」

正しい者は平穩無事、順風満帆な生活が保証されているような期待を持つ。その歩みが曲がっておらず、正当な歩みであるからして、悩みは少ないのではと思われる。他人から見ても羨むほど、と評価されること大である。

しかし、ここでは正しい者の悩みは多い、という。だからと言って、正しさを捨て去るようなことはない。その正しさを貫き通すから、悩みが多いのだ。この正しさは、自分の正しさではないようだ。自分の正しさであれば、状況によっては使い分けができそうなものだ。この正しさは、主の御前にある正しさだ。主の御前で正しくされた者の正しさである。この正しさを忠実に歩む者に悩みは多いのである。悩みが無くなるのではない。

しかし、悩み多き者が歌う。主はそのすべてから救い出される。多き悩みのすべてから、主が救い出してくださる。この道は平穩無事ではないし、また順風満帆でもない。むしろ悩ましい道のりである。しかし、悩みにまさる体験をする。悩みのすべてから救い出される体験である。そして、悩み多き歩みのなかで、そのすべてから救い出してくださる主を体験する。この歌を歌える体験。